

第2回三木市学校環境あり方検討会議 要旨

日 時：平成29年5月26日(金) 午後7時～9時

場 所：市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員	加治佐哲也	国立高等専門学校機構	監事
	山下 晃一	神戸大学大学院	准教授
	小山内政子	三木市区長協議会連合会	会長
	神澤 廣美	三木市区長協議会連合会	副会長 ※本日欠席
	安福 政明	三木市連合PTA	会長
	黒井 俊光	三木市連合PTA	副会長
	前田 信利	自由が丘東小学校	校長 (小学校校長会)
	野口 博史	志染中学校	校長 (中学校校長会)

事 務 局 松本明紀教育長、椎木栄作こども未来部長、
横田浩一学校教育課長、生田淳仁学校教育課特命課長

傍聴人の数： 3名

1 開会、会長あいさつ、教育長あいさつ

(会長)

- ・学校の規模が小さくなり、児童生徒数が減少している。我々は生徒数が右肩上がりの状況しか経験していない。児童生徒数が減少していく中で、気持ちがいぼんでしまうのではなく、新しいものを作ったり、アイデアを出したりする等、新たな歩みのための計画を作る力を付けることが大切。
- ・今日の会議はアンケートの内容について議論する。

(教育長)

- ・三木市の方針としては、少子化の中においても小学校は、メリットを生かし、デメリットを解消しながら地域の拠点として残す。中学校は生徒数が減少しているので、何らかの対応をしないといけない。
- ・少人数の学校では、成長の過程で切磋琢磨するのに適した時期に色々な個性に触れ合うことなく次のステップに進まないといけない。体育や部活動などにも影響がある。
- ・学校環境のあり方を検討することはデリケートなことなので、時間をかけてやっていきたい。

2 委員の委嘱、自己紹介

※ 本日の資料確認 (事務局)

※ これより進行は会長

3 説明事項

(事務局)

※ 第1回三木市学校環境あり方検討会議の議事録と資料を基に説明

4 協議事項

(事務局)

※ 資料1～5について説明

(会長)

資料1～5について委員の意見を聞きたい。

(副会長)

想定は20歳以上なので、それを明記したほうがよいのではないか。

(事務局)

記載する。

(会長)

設問の数はこれでよいか。また、回答にどの程度時間がかかるのか。

(委員)

設問の数も多いと感じるが、子どもがいない世帯や高齢の世帯では学校の様子をイメージしにくく、回答に困るのではないか。回答に要する時間は20分～30分くらいと考える。

(事務局)

学校の様子をイメージできないという意見は、その通りだと考えるが、回答しにくい設問には「分からない」という選択肢を設けることで対応している。

(副会長)

複数回答で答える場合、全て選択する方もいるのではないか。選択できる数を制限する議論はなかったのか。

(事務局)

議論はあったが、このまま提案し、委員の意見を聞いて判断したいと考えた。

(委員)

- ・ 回答数を制限したほうが、回答者の考えの傾向がはっきり見えてくるのではないか。
- ・ 今回の場合は広く聞かず、回答数に制限を加えた方がよいのではないか。
- ・ 魅力的な選択肢ばかりであり、全部選択する可能性が高い。

(副会長)

- ・ 問5は中学校に期待する事という大きな問いなので、制限を設けなくてもよいのではないか。

(会長)

「複数回答可」の設問について、問5、問10、問11は制限を設けない。そ

の他は2つ選んでもらう。

(副会長)

問15の自由記述は、色々な意見が聴取できる可能性があるので、多くの人に記述してもらいたい。そう考えると、問12では、アを選んだ場合は「設問は終わりです」ではなく「問15へ」の方がよいのではないか。

(事務局)

そのように修正する。

(委員)

問9でエ「どれともいえない」、オ「分からない」を選択した場合は、その理由を問10サ「その他（自由記述）」へ進むことを想定しているのか。

(事務局)

その通りである。

(委員)

「どれともいえない」「分からない」と回答するということは、判断材料がないために判断できないということであるから、理由を問う必要はないのではないか。

(事務局)

問9で、ア～ウと答えた者が問10へ進むようにし、エ、オについては次の質問へ進むように明示する。

(会長)

その方がよい。

(委員)

- ・我々は客観的に観ているが、答える側は「規模は大きいほうがよいが、通学が可能か」等、違う要素を持って「どちらともいえない」と答える可能性があることを知っておく必要がある。
- ・答える側の心情を考えると、設問の文言に配慮がもっと必要ではないか。
- ・「廃校」という言葉に配慮が必要である。

(会長)

- ・「廃校」ということは、学校の環境を整備する方法によっては避けて通れないことであるから、認識してもらうことは大切である。
- ・参考資料を見ると、整備方法によっては「廃校」となることが理解できるので、アンケート自体からは「廃校」の文言は削除してもよいと考える。

(委員)

学校を残したいが、現状では難しいので、どうしたらよいのか判断に迷っている方もおられる。学校が廃校になることについて覚悟している方もおられる。その方たちへの配慮として、設問の構成を考える必要がある。

(副会長)

- ・今の構成は、学校の状況を確認しながら課題を認識していくようになっており、悪い構成ではないと考える。

- ・判断に迷っている方がいるとすれば、どれくらいの方がいるのか、その状況を丁寧に把握することも必要だと考える。

(委員)

学校を残したいが、それができないことは理解しているという人がいるので、問 12 の設問の冒頭に「あえて聞きます」等を加えることで、学校を残したいという思いに配慮できるのではないか。

(委員)

- ・問 15 に自由記述欄があるので、アンケートの設問だけでは測ることができない保護者の思いや、判断に迷っている気持ち等をそこで知ることができるのではないか。
- ・小規模校の課題は、子どもが一番感じていると思う。問 15 に意見を書いてもらうことは、子どもと話し合いながら保護者の意思表示ができることであると考えるので、大切だと考える。

(副会長)

問 15 で積極的に意見を求めるようにすることは意義があると考えます。

(委員)

問 12、問 13 の言葉はもっと練るべきではないか。

(副会長)

できるだけ質問をシンプルにすることも一つの方法である。

(委員)

メリットはあるが、デメリットもあるため新たな方法が必要であるという言葉の使い方が必要ではないか。メリットを示す言葉が必要ではないか。

(会長)

問 12・13・14 は小規模校の課題を何とかしたいという政策を作る側の意図が入っている。政策を作るためのアンケートであるため、その意図があることは必要である。

(委員)

問 12 はアの答えが多くなると考えられるが、統廃合ありきではないので、そのような結果が出てもよいのか。

(事務局)

統廃合ありきのアンケートではなく、課題を解消するにあたり、その参考として地域の思いを整理するアンケートである。結果は受け止める。

(副会長)

アンケートは、まず第一歩であるので、これで全てが決まるというような乱暴な進め方ではない。

(会長)

保護者や地域の思いを踏まえたうえで、子どもの教育を進めていくためにどのような方法がよいのかを専門的な知見を踏まえて、市や教育委員会が判断をしていくことになる。

(委員)

問 11 と問 12 の間に現在の中学校のメリットを聞いた上で、問 12 に進むようにしてはどうか。問 12 の設問はシンプルに「残す」「残さない」とする方がよいと考える。

(副会長)

確かにメリットとデメリットのバランスが悪い。レイアウトを工夫する必要がある。

(会長)

問 6 ～問 8 は、学校に関わっていない方は回答に困ると思うので削除してもよいのではないか。

(委員)

問 6 ～問 8 は、子どもが学校に通っていない人は回答できないと思う。状況がわからないのに適当に答えることはできないと思う。

(会長)

中学生用のアンケートについて意見を聞きたい。

(委員)

中学生のアンケートを実施する際にアンケートの目的等の説明は担任が行うのか。

(事務局)

学校と相談させていただきたい。事務局が説明に行くことも考えている。

(委員)

担任の説明では、学級ごとに説明内容に差が出るかもしれないので、事務局がするほうがよいと考える。

(事務局)

そのようにする。

(委員)

アンケートを小学生には実施しないのか。

(事務局)

発達段階を考えると小学生にアンケートを実施することは難しいと考えている。

(会長)

これまで他の地域でも小学生にアンケートを行った例はない。小学生の発達段階を考えると小学生へのアンケートは適切ではないと考える。

(委員)

子どもの意見を聞いてほしいという保護者からの要望の意見が出ると思われるが。

(会長)

小学生にも思いがあることは認めるが、その意見が政策を決定する際の客観的なデータとなりうるかは疑問である。

(副会長)

- ・アンケート結果が政策に直結しているわけではないが、学校のあり方という判断を責任と共に小学生に背負わせていくにはリスクがある。
- ・中学生は中学校生活を経験しているので、経験を通して感じたことを答えてもらうことに意味がある。

(委員)

保護者の思いは、学校は残したい。しかし、学校を残しても問題が多いこともわかっている。その狭間で苦しんでいる状況であるということを理解したうえで、アンケート内容、文言を整理していく必要がある。

(副会長)

保護者の状況を理解しておくことは大切である。

(会長)

中学生は質問の意味を理解できるか。

(委員)

参考資料に説明があるので理解できると考える。

(会長)

- ・子どもから質問が出たとき等の対応を含めて、教育委員会が説明する方がよい。
- ・参考資料の内容も丁寧に説明する必要がある。
- ・中学生へのアンケートはどのように実施するのか。

(事務局)

実施方法については、学校の実情に合わせて学校と相談して決めたい。

(会長)

- ・事務局で本日の意見をまとめ、会長、副会長と相談して整理したものを各委員に送るので、確認願いたい。
- ・今後のスケジュールについて事務局から提案願う。

(事務局)

- ・6月に開催されている各地区の区長協議会で、アンケート実施の趣旨等を説明し、協力依頼する。
- ・アンケートは6月21日の定例教育委員会で議決し、正式に決定する。
- ・アンケートの実施は、7月。事務局で回収、分析後、環境整備実施方針素案を作成し、素案の内容について次回のあり方検討会議で議論する。

(司会)

次回のあり方検討会議は10月下旬に実施予定。

5 閉会あいさつ

(副会長)

- ・各委員から多様な意見が出され、活発な議論ができたことは、大変有意義であった。
- ・アンケートをきっかけに地域の方は学校に目を向けてほしい。地域の未来を支える子どもたちのために、大人が責任を持った決断をするための議論を今後も行っていきたい。

6 その他

(事務局)

今回は、10月下旬に開催予定。委員と日程調整後、連絡する。

7 閉会